

Japanese Graded Readers

レベル別  
日本語多読  
ライブラリー



にほんごよむよむ文庫

レベル4 vol.1 2

永井隆  
ながい たかし  
原爆の地  
げんばくのち  
長崎に生きて  
ながさきにいき



子どもたちと過ごす永井隆

にほんご よむよむ文庫 レベル 4

なが い たかし  
**永井 隆**

げんばく ち ながさき い  
～原爆の地 長崎に生きて～

作(さく)：橋爪 明子(はしづめ あきこ)

監修(かんしゅう)：NPO法人日本語多読研究会(にほんご たどく けんきゅうかい)

<監修者紹介>

**NPO法人 日本語多読研究会** (にほんご たどく けんきゅうかい)

当研究会は、学習者のための「読みもの」をつくることを目的に、日本語教師が集まって、2002年1月に発足しました。2006年9月にNPO法人になりました。「レベル別読みもの」を開発したり、それらを使った「多読」授業の実践・研究をしています。http://www.nihongo-yomu.jp

**レベル別日本語多読ライブラリー** (にほんご よむよむ文庫)

[レベル4] vol.1

**永井隆 ～原爆の地 長崎に生きて～**

2006年10月10日 初版 第1刷 発行

2008年 9月29日 初版 第2刷 発行

著者：橋爪 明子 (日本語多読研究会会員・日本語教師)

監修：NPO法人 日本語多読研究会

協力：永井 徳三郎 (長崎市永井隆記念館館長)

長崎原爆資料館

ナレーション：篠原 明美

録音・編集：スタジオ グラッド

デザイン・DTP：有限会社トライアングル

発行人：天谷 修平

発行：株式会社アスク出版

〒162-8558 東京都新宿区下宮比町2-6

TEL.03-3267-6864 <http://www.ask-digital.co.jp>

印刷・製本：株式会社光邦

許可なしに転載・複製することを禁じます。

乱丁・落丁はお取り替えいたします。

©NPO法人 日本語多読研究会 2006

Printed in Japan ISBN978-4-87217-627-8

# 日本語を勉強しているみなさんへ

「にほんごよむよむ文庫」は、

日本語を勉強しているみなさんのための「読みもの」シリーズです。

楽しみながらたくさん読んでください。

やさしいものからたくさん読むと、知らないうちに漢字の読み方や言葉が身につきます。

読んだ話をCDでも聴いてみてください。読みながら聴いてもいいでしょう。

目からも耳からもどんどん日本語を吸収しましょう！

## 「にほんごよむよむ文庫」4つのルール

- 1 やさしいレベルから読む。
- 2 辞書を引かないで読む。
- 3 わからないところは飛ばして読む。
- 4 進まなくなったら、他の本を読む。



にほんご よむよむ文庫 レベル 4

なが い たかし  
**永井 隆**

げんばく ち ながさき い  
～原爆の地 長崎に生きて～

作(さく)：橋爪 明子(はしづめ あきこ)

監修(かんしゅう)：NPO法人日本語多読研究会(にほんご たどく けんきゅうかい)

# 国境

国境の表示方法



ながさき けん  
長崎県  
ながさき し  
長崎市

しまね けん  
島根県  
まつえ し  
松江市

ひろしま けん  
広島県  
ひろしま し  
広島市

とうきょう と  
東京都

せんきゅうひやくよんじゅうごねん 一 九 四 五 年、八月六日、広島に、世界で初めて原爆（原子爆弾）が落とされました。

みっかご その三日後の八月九日、長崎にも原爆が落とされました。

ひろしま 広島では二十万人以上の人が、長崎では十五万人以上の人が、原爆で怪我をしたり命を落  
としたりしました。そして、生き残った人々も、その後、原爆症になりました。

げんぱくしょう 原爆症というの

げんぱく は、原爆から出た放

しゃのう 射能を浴びて、体の

いろいろな部分が悪

くなる恐ろしい病

気です。



じふんととけい 11時2分で止まった時計  
ながさきげんぱくしりょうかんしやう  
(長崎原爆資料館所蔵)



ながいたかし  
永井隆はそのとき、長崎にいました。そし

て、原爆症になりました。隆は病気の体で、

苦しんでいる人々を助け続けました。普通の

人にはできないくらい多くのことをしました。

隆はどんなことをしたのでしょうか。隆の

一生は、どんなものだったのでしょうか。

永井隆は一丸〇八年、島根県の松江で生まれました。父親は医者でした。隆が一歳のとき、家族は山の中の村に引っ越しました。父親が村の医者になったからです。

その時代の村の生活は大変でした。もちろん、電気もガスも水道もありません。みんなとても貧乏で、病気で死ぬ人がたくさんいました。

父親は村の人たちを助けるために、一生懸命働きました。母親も仕事の手伝いをしました。



ながいたかし  
永井隆

ながいたかし きねんかんとしよぞう  
(永井隆記念館所蔵)

そして、二人は夜にな

ると、ランプの光の下

で医学のことを話し合

いました。昼の仕事で

疲れているのに、その

ときの二人はとても楽

しそうでした。

隆は、いつも布団の

中からそれを見ていま

した。そして、いつか

自分も医者になって、

人々を助けたいと思っ

ていました。



ちち はは たかし  
父と母と隆

なが いたかし き ねんかんしょう  
(永井隆記念館所蔵)

隆は勉強がよくできたので、東京帝国大学（今の東京大学）に行くだろうと、みんなは思い

ました。その頃、東京帝国大学が日本で一番難しい大学だったからです。

でも、隆は長崎医科大学（今の長崎大学医学部）という小さな大学を選びました。

そのとき、隆も世界中のだけれも、十七年後の長崎に何が起こるか知りませんでした。

隆は一九二八年、長崎医科大学に入りました。

大学時代は勉強だけでなく、いろいろなことに興味を持

ち、短歌（日本の三十一文字の詩）の会に入ったり、絵を

描いたりしました。隆は運動が得意ではありませんでした

が、体が大きかったので、バスケットボールのクラブも作

りました。そして、他の人の何倍も練習をしたそうです。

隆はとても努力家で、どんなことでも最後まで頑張る人

でした。



大学時代の隆  
(永井隆記念館所蔵)

隆は森山という人の家から大学に通いました。森山家は長崎市の浦上というところにあります。森山家の人たちはキリスト教の熱心な信者（神を信じる人）でした。家の前には浦上天主堂という教会がありました。

十七年後、この教会から五百メートルのところに原爆は落とされるのです。



せんそうまえ うらかみてんしゆどう  
 戦争前の浦上天主堂  
 ながさきげんぱくしりょうかんしよぞう  
 (長崎原爆資料館所蔵)

せんきゅうひやくさんじゅうにねん だいがく そつぎょう  
一九三二年、大学を卒業するとき、隆は何の医者になるか決めなければなりません  
した。ところが、風邪をひいたことから、重い病気になってしまいました。病気は治りましたが、  
しばらく耳がよく聞こえませんでした。これでは聴診器（胸やおなかの音を聞く道具）が使え  
ません。それで、隆は聴診をしない放射線医学（X線を使う医学の研究）を専門に選びまし  
た。

ころ にほん ちゅうごく せんそう  
この頃、日本と中国は戦争をしていました。日本は中国に軍隊を送っていました。  
一九三三年、隆も二十五歳で兵隊として中国へ行き、軍医（軍隊の医者）の手伝いを  
しました。

せんそう へいたい せんそう くる ちゅうごく ひとびと  
戦争で死んでいく兵隊たちや、戦争のために苦しむ中国の人々。それを見て、隆は何を感じ  
たのでしょうか。

ある日、隆ひ たかしに日本にほんから荷物にもつが届とどきました。森山家もりやまけの娘むすめ、緑みどりからでした。荷物にもつの中には、キリスト教きりすとけうの本ほんが入はいっていました。隆たかしは今いままでこのようような本ほんには興きよう味みがありませんでしたが、このときは熱心ねっしんに読よみました。

日本にほんに帰かえると、隆たかしはすぐ、キリスト教きりすとけうの信者しんじやになりました。そして、森山緑もりやまみどりと結婚けっこんしました。



たかし つま もりやまみどり  
隆の妻・森山緑  
なが いたかし き ねんかんしよぞう  
(永井隆記念館所蔵)

せんきゆうひやくさんじゆうななねん たかし こんど ぐんい  
一九三七年、隆は今度は軍医として、また中国へ行きました。

たかし にほん へいたい  
隆は日本の兵隊だけではなく、中国の兵隊や普通の人々も同じように治療（病気を治すこと）  
をしました。それを聞いて、病氣や怪我をした中国人がたくさん隆のところへ来ました。

せんきゆうひやくさんじゆうきゆうねん いちねんかん よんせん にん ちゆうごく ひとびと たす  
一九三九年には一年間で四千人の中国人の人々を助けたそうです。

せんきゆうひやくさんじゆうねん にほん もとど たかし ながさきい かだいがく じよきよじゆ  
一九四〇年、日本に戻ると、隆は長崎医科大学の助教授になりました。そして、大学病  
院で忙しく働き始めました。

たかし たいへんきび せんせい ひと つよ しか しごといがい ほん  
隆は大変厳しい先生で、はじめに働かない人を強く叱りました。しかし、仕事以外では、本  
当に優しく温かい人でした。冗談を言うのが大好きで、いつも周りの人を笑わせていました。  
だから、病院で働いている人たちは、隆を「お父さんのようだ」と思っていたそうです。

せんきゆうひやくさんじゆういちねん にほん せんそう はじ  
一九四一年、日本はアメリカとも戦争を始めました。

せんきゆうひやくさんじゆうよねん たかし いがくはかせ しごと いそが びやういん  
一九四四年、隆は医学博士になりましたが、仕事はもっと忙しくなりました。病院で

働いていた人たちが、次々に戦争に行つてしまったので、その人たちの仕事までしなければならなかったからです。

この頃、結核という病気になる人がたくさんいました。結核になると、熱や咳が出て、体が弱くなります。死ぬ人が多い、怖い病気でした。隆は結核の検査のために、毎日、たくさんX線検査（X線）で体の中の写真を撮る検査をしなければなりませんでした。

戦争のせいで、いろいろな物が足りなくなっていました。X線検査のフィルムもありません。それで、隆は機械に顔を近づけて見なければなりませんでした。このとき、X線をたくさん体に浴びました。これがどんなに危ないことか、隆は知っていました。でも、人々を救うためにそれを続けました。

毎日、毎日、忙しくて、家に帰るのが遅くなつてしまいます。家に帰ると、子どもたちももう寝ています。時々、とても疲れて倒れてしまうこともあります。そんなときは、妻の緑がやさしく世話をしてくれました。どんなことがあつても、家族がいることは本当に幸せだと、隆は感じていました。



せんきゅうひやくよんじゅうごねん ろくがつ たかし  
一九四五年の六月、隆はとうとう病氣びょうきになってしまいました。

びょうめい はつけつびょう けつえき がん えつくせん げんいん  
病名は「白血病はくけつびょう（血液の癌）」。X線が原因げんいんでした。「あと三年しか生きられない」と医者いしやは  
い  
言いました。ながさき げんばく  
長崎に原爆が落とされる二か月前にのことです。

せんきゅうひやくよんじゅうごねん はちがつむいか ひろしま  
一九四五年、八月六日、アメリカが広島  
げんばく お  
に原爆を落としました。

このか にかいめ げんばく きゅうしゅう  
九日、アメリカは二回目の原爆を九州の小倉  
ひ こくら そら まえ ひ お  
その日、小倉の空は、前の日に落とされた爆弾  
けむり ひこうき した み  
の煙で、飛行機から下がよく見えませんでした。  
ぐん ひこうき ながさき む  
そこで、アメリカ軍の飛行機は長崎へ向かいま  
たかし いえ うらかみ きょうかい ほう  
した。隆の家がある浦上の教会の方へ……。

